

地方版IoT推進ラボ 第四弾選定地域の概要

■ 北海道室蘭市 IoT Acceleration Muroran city Lab

- ・先進的に取り組む「オープンデータ」を活用した地域課題解決の更なる発展に取り組む。
 - ① 行政データとGIS（地理情報システム）連携等による「市民サービス向上」
 - ② 岩手県宮古市とのフェリー就航、大型客船の入港等を好機とした「観光促進」
 - ③ 教育機関、民間企業に対する、学ぶ場・情報交流の場の提供（「人材育成」）
- ・地域課題解決などに活用可能なデータについては「オープンデータ」として公開し、他地域への展開可能なオープンデータ活用事例の検討・展開に取り組む。



←宮古～室蘭間を1日1便で結ぶ
旅客フェリー就航。最大600名。
航海時間は約10時間。

室蘭市ではハッカソン→
を開催しオープンデータ
を活用したアプリを作成



←GISデータを
中心に様々な
データを公開



■ 北海道北見市 IoT Acceleration Kitami city Lab

- ・「ふるさとテレワーク」進出企業と地元 産・官・学との連携プロジェクトによる、IoTを活用した北見発ICT産業創出による地域経済の活性化。
- ・H27「ふるさとテレワーク推進事業」で首都圏の企業9社から、延べ180人がテレワーク。
3社がサテライトオフィスを開設。地方創生に向けた連携協定を締結。
- ・連携プロジェクトの例：
 - ① 主要産業である水産業×IoT活用（サケ・マスの競りシステム、マリンセンサーなど）
 - ② 北見工業大学との冬季スポーツ×IoT（カーリング、アルpensキーなど）
冬季スポーツに特化した研究センターを開設（国内初）
 - ③ ICT人材育成
 - ④ 観光資源とICTを活用したビジネスマッチング

・サケやマスのセリシステム

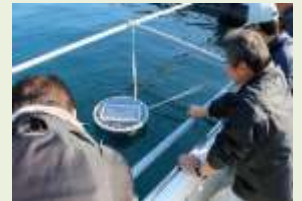


アルpensキー

・日本人に特化したスキー用具の開発



・マリンセンサーの開発



カーリング

・戦術支援システムの開発



地方版IoT推進ラボ 第四弾選定地域の概要

■ 北海道稚内市 IoT Acceleration Wakkanai city Lab

・「陸上養殖」への新規取組み：

最北のまち、稚内市の基幹産業である「**水産業**」は、**漁獲量が減少傾向**。

三方を海に囲まれた豊富な海水による海水かけ流し方式、

日本最北の冷涼な気候による夏場のコスト削減、等の**地理的優位性を強みに**、

新たに「陸上養殖」に取組む。

・「勇知いも」の生産性向上：

「雪氷貯蔵施設」での冬期間保管により糖度を増す「**勇知いも**」は、**圃場が限られており生産量も限られている状況**。

IoTを活用した「気温・地温管理」「天候予測」「病気発生」等の情報集積・解析により生産性向上に取組む。



「陸上養殖」の風景



「勇知いも」と雪氷貯蔵施設

■ 北海道長沼町 IoT Acceleration Naganuma town Lab

「好立地」「観光資源」「リノベーション宿泊施設」を活用した**宿泊客増**に取組む。

・空の玄関口・新千歳空港や大都市・札幌市から自動車で1時間以内に位置し、国道274号、国道337号が交差する交通の要衝で**サイクリストやライダーといったツーリング客の宿泊需要が望める「好立地」**。

・主な「**観光資源**」は、町域の約7割を農地が占める農業を軸とした「**グリーン・ツーリズム**」、また近年、舞鶴遊水地に戻ってきた「**タンチョウ**」と「**タンチョウも住めるまち**」など。

・未利用の職員住宅、教員住宅などを、**IoTを活用した「リノベーション宿泊施設」**化、高い利便性と低コストを両立した宿泊施設を増加。

・これにより、インバウンド、サイクリスト、ライダーなど、

現在の宿泊率約5%を改善し、宿泊客数増を目指す。



トマトの苗植え



トウモロコシの苗の移植



ズッキーニ畑の整備



夕食のお慶い作り

↑「グリーン・ツーリズム（農家民宿・体験交流）」

地方版IoT推進ラボ 第四弾選定地域の概要

■ 北海道東川町

ポイントカードを新たな軸とした、地域産業・コミュニティ活性化。

- ・町内約120の事業者で次世代型ICポイントカードシステム「ひがしかわユニバーサルカード（HUC）」を導入。導入1年以内で町民の過半数を含む約1万人が利用する地域カードに成長。
- ・ポイントカード利用で得られる消費動向・施設利用動向等のデータを集積・分析することで、
 - ①商業活性化、
 - ②生活満足度向上、
 - ③業務最適化・効率化
を目指す。
- ・更に各加盟事業者の商品・サービスを組み合わせ、オリジナルの高付加価値事業創出を目指す（飲食・クラフト・自然体験を合わせたツーリズム、ふるさと納税制度との連携など）。
- ・他にも、写真甲子園、常時約200人の外国人留学生が通う日本語学校、地域クラウド交流会（100人規模の起業家マッチングイベント）、ひがしかわ株主制度（ふるさと納税）など、地域活性化のための様々な取組により、約20年間で約16%の人口増加。



↑「ひがしかわユニバーサルカード」

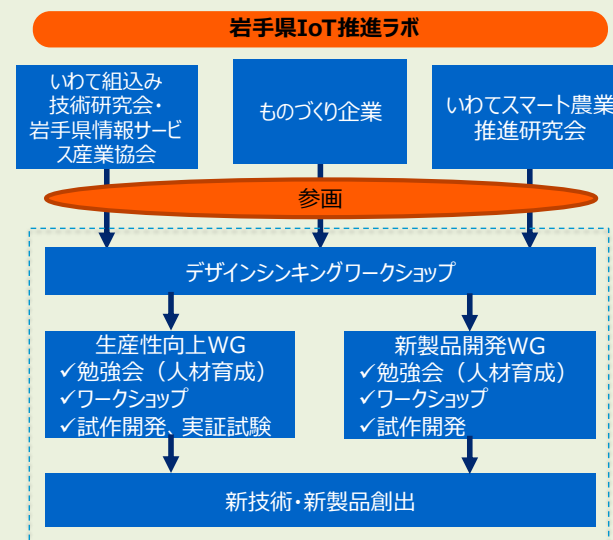


↑「HUC 株主証」

■ 岩手県

・研究・地域連携の促進等の支援機能を有する岩手県立大学を中心に、ものづくり企業の生産性向上や農業等との異業種連携による新製品開発を進め、イノベーション推進を支援。

- ①デザインシンキングワークショップの開催
 - ②ワーキンググループにおいて、ワークショップや試作開発の実施
 - ③専門家による人材育成に資する勉強会の定期開催
 - ④成果発表会の開催
- ・先行プロジェクトの成果等を広く情報発信し、県内企業の試作品の実証試験等により、県内中小企業におけるIoT等の導入への機運醸成を図り、県内企業の自主的な活動につなげていく。



地方版IoT推進ラボ 第四弾選定地域の概要

■ 岩手県滝沢市 IoT Acceleration Takizawa city Lab

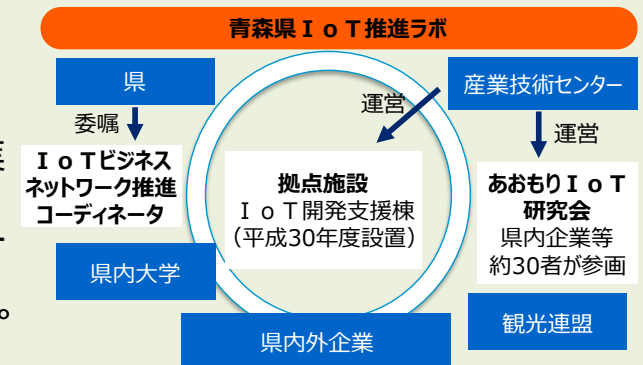
- ・滝沢市は、IT関連企業の一大集積拠点として、滝沢市IPUイノベーションパークの整備を推進。
- ・企業間マッチング機会の提供や産学官実証実験フィールドの提供、子どもを含めたIoT技術力の向上による企業の集積を推進し、産学官連携と地域課題解決による自立化を目指す。
 - ① マッチング機会となる産学官交流・異業種交流
 - ② 産学官連携の研究開発プロジェクト形成
 - ③ 高度技術者育成研修、ETロボコン、子ども向けプログラミング教室



滝沢市IPUイノベーションパーク

■ 青森県 IoT Acceleration Aomori pref Lab

- ・青森県は、インバウンド観光客が増加している一方で、リピーター増、消費増に向けたIoTを活用した仕組み作りが必要。また、ものづくり分野では、多くの企業はIoTを活用した製品やサービスの開発や新たな事業展開には至っていない。
- ・このため、観光・ものづくり分野において、試作開発補助金、実証事業等のIoTビジネス創出支援や、セミナー・セキュリティ研修等の人財育成事業を実施する。
 - ① 観光分野における実証事業の展開
(青森県をフィールドとする多言語化、キャッシュレス実証事業)
 - ② ものづくり分野における新製品・サービス開発や新事業展開
(地域課題解決型の新たな事業を行う県内企業を産学官連携で支援)



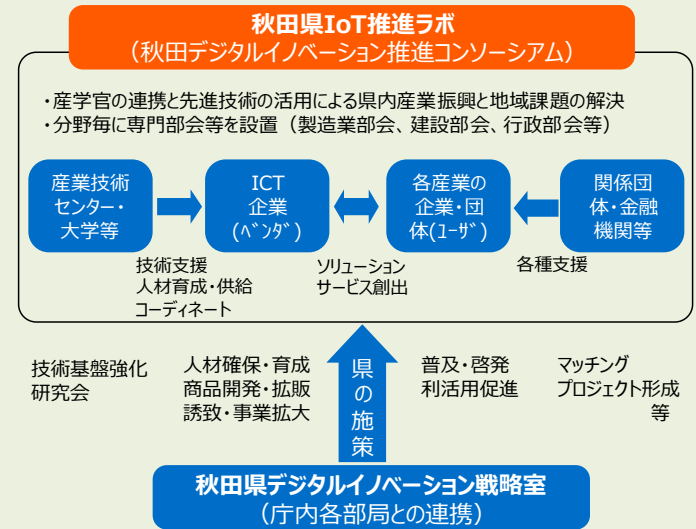
出所：青森県観光連盟

地方版IoT推進ラボ 第四弾選定地域の概要

■ 秋田県

・産官学連携の「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」を設立。「製造業・サービス業部会」、「建設部会」及び「行政部会」を設置し、その他の分野においてもプロジェクト形成等の取組を進めるとともに、以下の支援を実施する。

- ①IoTの啓発・導入促進
- ②ICT人材確保・育成
- ③ICT企業強化
- ④IT産業集積・スタートアップ支援
- ⑤ICT活用支援



■ 栃木県

・産学官金の多様な機関と連携した“オールとちぎ”体制で、IoT等第4次産業革命を推進し、県内におけるIoT等の活用と提供の好循環の実現及び革新的な製品・サービスの創出を目指す。

- ①IoT等関連取組の集約・共有・発信
- ②IoT等の導入・活用促進
- ③IoT等を支える産業の成長促進
- ④IoT等活用プロジェクトの創出（県の全庁横断組織である栃木県情報化推進本部「ICTによる産業振興専門部会」において、地域課題の検討・選定を実施）



とちぎロボットフォーラム



地方版IoT推進ラボ 第四弾選定地域の概要

■ 新潟県柏崎市 IoT Acceleration Kashiwazaki city Lab

・ものづくり産業と情報産業の振興に重点的に取り組んできた産業基盤を活かし、**産業横断的な相乗効果によってスマートファクトリーを実現し、新たなビジネスの創出に取り組む。**

・新潟工科大学を中核に、行政、ものづくり企業、情報産業事業者、金融機関、商工団体と連携した次の事業に取り組むことにより、ものづくり産業における技術の継承とIT人材の育成・確保を実現する。

- ①ものづくり企業に対するIoT・AI技術導入支援
- ②サプライチェーン全体の最適化を目指した実証実験
- ③IoT・AI活用人材や高度IT人材の育成



スマートファクトリーシティ in 柏崎

■ 石川県能美市 IoT Acceleration Nomi city Lab

・能美市内企業が、IoTの導入により生産性の向上を促進し、多様な企業が連携し新たなビジネスモデルを展開できる体制の構築を目指す。

・北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）を核として研究機関や支援機関が一体となった「**いしかわサイエンスパーク**」に、**IoT企業等の産業集積の形成を目指す。**

- ①異業種情報交換会の開催
- ②地域課題解決のためのIoT・AI活用アイデアソン
- ③小中学生を対象としたプログラミング教室の開催、小中学校教師を対象としたプログラミング教育の指導者の養成



いしかわサイエンスパーク

地方版IoT推進ラボ 第四弾選定地域の概要

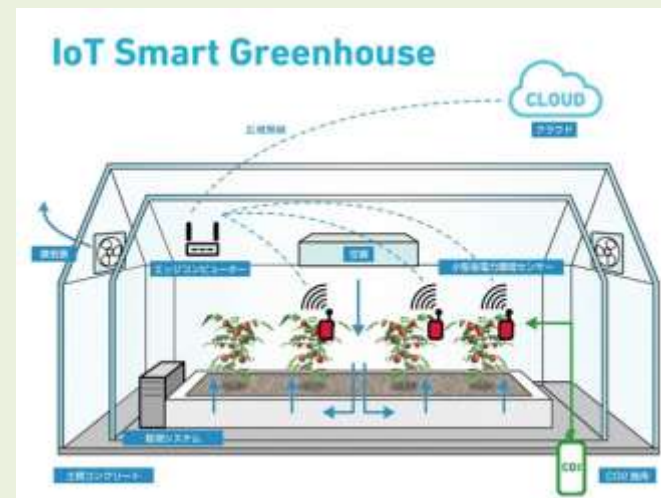
■ 大阪府八尾市 IoT Acceleration Yao city Lab

- ・八尾市は、歯ブラシ（トップシェア）、金属製品、電子機器他、**多様な生産工程や技術が集積するも、下請けの位置づけで企業認知度が低い。**
- ・民間協働ローカルイノベーション推進拠点「**みせるばやお**」（H30年8月開業）にて、**①空間シェア、②顧客情報（購入記録等）シェア、③参加企業の人材が持つナレッジシェアを促進。**
- ・IoTトライアルによるクリエイティブな**人材育成、アイデア・行政情報のオープンデータ化**を図り、**地域企業同士の協働環境のリファレンスモデルとなることを目指す。**



■ 滋賀県米原市 IoT Acceleration Maibara city Lab

- ・先進アグリビジネスのテストベッドとして先進農業システム「IoT Smart GreenHouse」を大規模設置した「**AIアグリ産業集積拠点**」の誘致・立ち上げを検討。
- ・同拠点を中核として、「**AI/IoT技術を駆使した先進アグリビジネス参入事業者**」及び「**同関連領域の技術開発スタートアップ・ベンチャー**」の創出・誘致を進める。
- ・また、米原市の地域政策の拠点として位置付けることにより、食育、農福連携といった政策間連携による地域課題の解決を目指す。



テストベッドのシステムイメージ（出所：ヤンマー株式会社HP）

地方版IoT推進ラボ 第四弾選定地域の概要

■ 徳島県 IoT Acceleration Tokushima pref Lab

- ・産学官が一体となってIoT等の新技術を積極的に活用した地域課題の解決や地域経済の活性化、県民サービスの向上に資する取組「とくしまインダストリー4.0」を推進する。
- ・データ共通基盤「とくしまIoTプラットフォーム」を整備し、企業、大学等へ開放することにより、新たな「IoTサービス」を創出する。
 - ①IoT等に関する取組のシーズやニーズのマッチング
 - ②IoT等に関するセミナー・研修会の開催
 - ③IoT等に関する情報収集及び情報発信
 - ④会員同士のネットワークづくり 等



■ 徳島県神山町 IoT Acceleration Kamiyama town Lab

- ・官民地域連携のコンソーシアムを組織し、スマート農業やスマート林業を導入することで、獣害対策・独居老人問題等の地域課題解決に向けたIoTビジネスの実証実験を推進する。
- ・既存施設（神山バレーサテライトオフィスコンプレックス）と、新施設（JA名西郡上角支所跡地）を活動拠点として活用。
- ・地域拠点は住民にも開放し、「Lab KAMIYAMA」としてプロジェクトの創出を目指すとともに、ビジネスの担い手となるIoT人材の育成を図る。



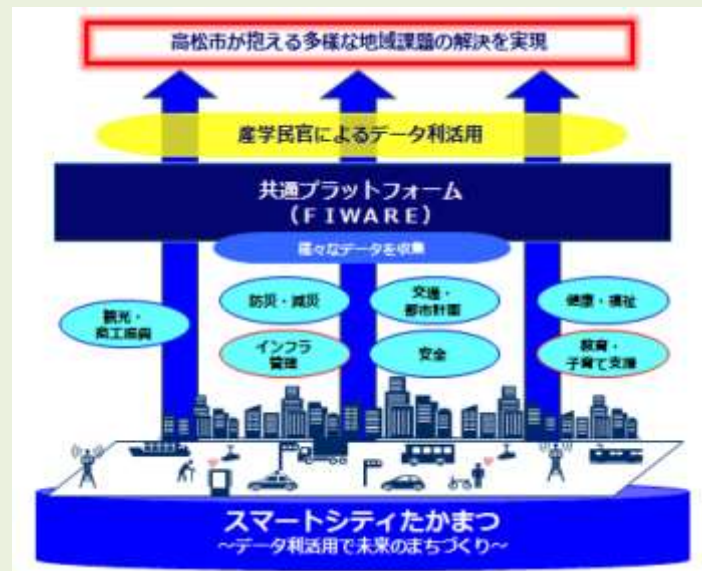
地方版IoT推進ラボ 第四弾選定地域の概要

■ 香川県高松市 IoT Acceleration Takamatsu city Lab

- ・スマートシティたかまつ推進協議会における産学民官の連携の下、**共通プラットフォーム上での官民データの利活用を通じた高松市のスマートシティ化**による、地域課題の解決、及び地域経済の活性化を図る。
- ・スマートシティたかまつ協議会内に、テーマごとにワーキンググループを設置し、設置期間終了後には事業化を目指す。

◇ワーキンググループ（WG）の例

- ・ビッグデータによる交通安全の推進（2018年2月～）
- ・災害対応におけるIoT活用（2018年5月～）



■ 長崎県島原市 IoT Acceleration Shimabara city Lab

- ・地域の強みである、**第一次産業、食料品製造業を「『食べ』ものづくり産業」と位置付け、IoT関連企業との連携、技術導入、ビジネスマッチング**による**新たな産業創出**により、**所得向上、雇用拡大**を図る。

① 人材教育・交流分野

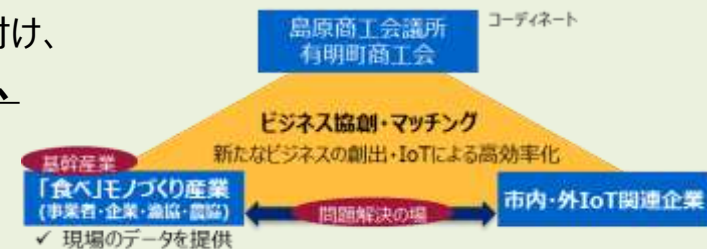
現在取り組んでいる「**大学連携**」「**市職員のIT企業派遣**」「**島原城下プログラミングスクール**」「**地域ICTクラブ**」に加え、**市内高等学校の「IoT学習活動」**を支援。

② ビジネス分野

「**ジオアワビ**」の**陸上養殖実証事業**を先行事例とし、新たなビジネス創出を図る。

③ その他

窓口業務AI実証、AIを用いた観光コンテンツ提供など。



ジオアワビ陸上養殖施設のIoT導入

地方版IoT推進ラボ 第四弾選定地域の概要

■ 沖縄県沖縄市 IoT Acceleration Okinawa city Lab

・スタートアップカフェコザを拠点とし、創業希望者を支援するワンストップ窓口を設置。
地域経済を牽引する人材や企業を輩出するとともに、外部からの人材流入、企業移転、民間投資の喚起につなげ、エコシステムの構築を目指す。

・スタートアップカフェコザの取組み例：

- ①スタートアップカフェコザ：創業・起業支援の相談窓口。無料コワーキングスペース完備。
- ②コザショアスタジオ：有料会員コワーキングスペース。プログラミングスクール開催。
- ③オキナワミライファクトリー：FABスペース（3Dプリンター、レーザーカッターなど）

・約2年の取り組みで、プログラマーの卵が約200人、年間約20,000人利用、約50件の起業など、実績多数。今後は、県内だけではなく、アジアの中心である地理的優位性から、グローバルスタートアップコミュニティに発展させる。

START UP CAFE
KOZA SINCE 2016

KOZA shore Studio

OKINAWA MIRAI
FACTORY

PROXIMO



IoT Acceleration
Local Lab



地方版IoT推進ラボポータルサイト
<https://local-iot-lab.ipa.go.jp/>

